

2021/2/20

(うとQ世話し すべてから人間社会というものは)

アジア系外国人のお友達から

「この国ではワイロがないのでビックリした」

という感想を聞いて、こちらの方がビックリしてしまいました。

別に政治家レベルの話をしているわけではありません。

その友達が言うには、この国(我が国)以外は、税関にせよ、おまわりさんにせよ、場合によっては病院の窓口から軍人さんまで、兎に角ワイロだらけと申しますか、一事が万事お金と申しますか。

なので、それが世界の常識、ワールド・スタンダードだと思っている外国人さんの中には、我が国国民から善意でサービスされたり、好意での提供をされたりすると、逆に

「そんな筈はない。きっと何か裏がある」

と勘ぐって、そのサービスや提供物を敬遠することもあるようです。

一方うってかわって我が国国民は、お金に対して、少なくとも庶民レベルでは、結構潔癖なのですが、これまた逆に対人関係において、我が国国民同士の間では、遠慮なく本心を口にする外国人さんとは正反対に

「自分が本心を言わないのだから、きっと相手も本心等言うはずがない。自分と同じように本心とは反対のことを言っているに違いない」

と勘ぐるようです。

それが我が国国民同士間なら、経験則上解りもしますし「まあ、やむなしだろう」ですむのですが、そんなことに全く馴れていないアジア系外国人さん方始め、欧米系の外国人さん方は

「何で来ます、来ますって言っていたのに、来ないの?」とか

「まあステキ、是非欲しいわ、とっておきながら、置いて帰っちゃうの?」とか

その言行不一致ぶりに困惑混乱してしまうようです。

もし自分が冒頭のアジア系外国人であったなら、この国(我が国)に降り立った途端

「この国では、正反対の事を言うので、ビックリした」

となりそうです。

兎も角も、全世界中、お金であるか対人関係(交流術)であるかは別として、物心共に

「under the table world(テーブルの下、水面下の世界)」になっているようです。

少し舌足らずで端折った言い方になりますが

「守るも攻めるも、我が身大切」の恐怖心から、というのが

すべてから人間社会(イヤ、生物界全体)の有り様なのかもしれません。

追記)

上記の「守る」は敬遠や言行不一致である事は想像しやすいのですが、少しわかりにくいかもしれない「攻めるも」については「周りが皆ワイロを受け取っているのに、自分だけ乗り

遅れては大変」からのワイロ強要は一見「攻めの姿勢」に見えますが、実は「乗り遅れては」は「貧乏くじを引いては」或いは「取り残されては」という恐怖心に根ざしている事を指しております。蛇足ながら。